

たじみん昼話 117

推薦自己申告書の観点とは

推薦試験で提出する自己推薦書は、合否を左右する当日の筆記試験や面接に匹敵する重要なものだ。だが前者2つが当日の出来に左右されるのに対して、時間をかけて取り組めることや、教師からの添削や支援を受けられるということから、「取組み易し」と捉えられがちだ。

しかし志望理由書は、受験生の意欲や学校入学後の計画性を測定する重要な資料に位置付けている学校が多いので、作成を軽視してはいけない。

今回は、自己推薦書を書くために必要な4つの観点を提案する。

観点1: 自分の特長と志望学校の特徴を徹底的に洗い出す。

いきなり志望動機・志望理由を書き始めようと思っても簡単には書けないものだ。まずやることは、学校と自分がいかにマッチングしているかをアピールする材料を探すために、応募大学の情報を徹底的に理解することだ。資料やホームページに掲載されている、〇〇ポリシーを端から端まで熟読しよう。そして、ここで得た情報と自分の強みやスキルの適合箇所を徹底的に考え抜こう。

観点2: 志望動機の基本構成を理解しておこう

志望動機は、入学意欲や入学後の活躍イメージを志望学校に知ってもらうためのものだ。したがって志望動機を作成する際は、「自分が研究したい事が志望学校にしかないこと」、「この学校を選んだ自分だけにしかない理由」、「自分が活かせる経験やスキル」、「入学後に学校で取組みたいこと」、「その取組みのために既に実行している具体的な〇〇なこと」、「卒業後に実現したい明確なイメージ」、の6つは最低限用意することが必要だ。

尚、この志望理由書の作成は、「自分の動機を明確にする」とことと「受験モチベーションを向上する」の2つの利点があるので、丁寧に作成して欲しい。

観点3: 根拠は具体的に提示する。可能なら明確な数字で説明したい。

理由については、「時系列」、「比較」、「数字」、を使って論理的に記述しよう。

観点4: 今後在籍したい研究室、研究者の名前を記述する。

これを提示することで、志望理由の強度がアピールできる。